



発行所
在日大韓基督教會總會
文書委員會
大阪市西成區梅通五丁目二番地
電話 大阪四五一九六
發行人 丁 仁 壽
編集人 羅 曾 男
印刷所 僑 文 社
購読料 1部 20円(送料共)
毎月 1回 15日 発行

激動하는 社会에 宣敎할 態勢

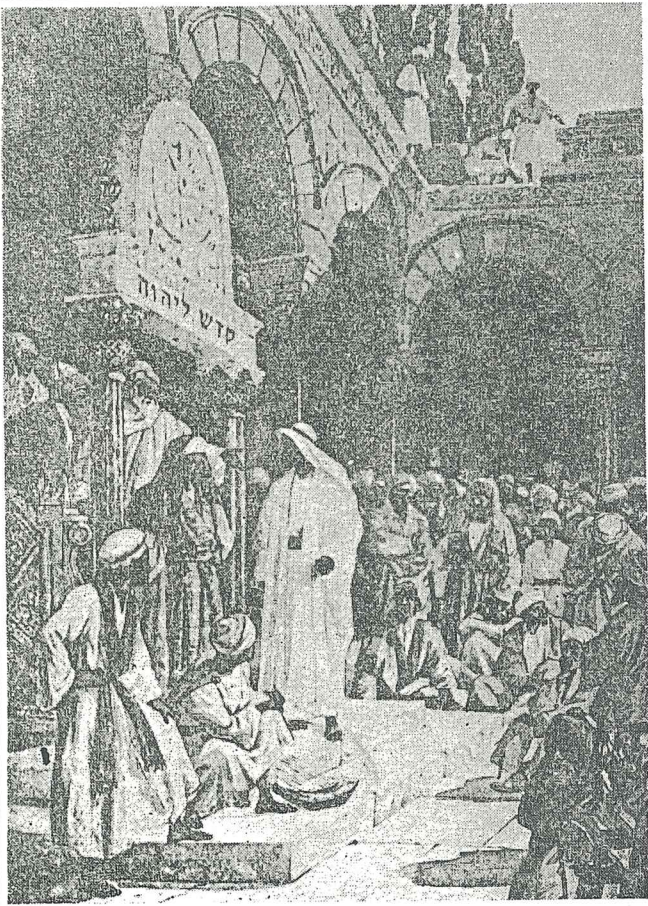
僑胞들의 核心에 福音을 伝하자

격변하는 社会에 대비하여 재일대한국교회의 당면한 과제를 연구하기 위하여 지난 四月十六·七日 京都교회당에서 전교연구회가 열렸다. 각발제자들의 충실한 연구와 활발한 발언은 과제를 해결하며 발전시키는 데 성과가 있었다.

어떻게 선교 교회가 되느냐 재일교포의 현실은 나라가 있으면서 없는 국민이며 정치없는 백성이며 고향없는 인생이다. 즉 고상한 내면 내적 생활이 없는 교아적이며 과부적이다.

이러한 교포에게 대하여 우리교회는 (마태十六·十八) 나라는 유대인 신자를 반석은 교회였다는 사실 예수께서 하시는 성전에 가서 장사하는 자들을 내 땅 하겠다 그후 예수님은 성전에서 많은 사람을 권유있게 가 오시며 「기도하는 집이 강 도의 굴이 되었다」고 책 망 하겠다 그후 예수님은 성전에서 많은 사람을 권유있게 가

예수傳画報(39)



사람의 마음을 아시는 예수

탈북트 宣敎師 安息 帰国

카나다 전교부 의국선교 부에서 파견받은 탈북트선 교사는 안식년을 맞이하여 四月十八日 귀국했다. 그는 재일대한국교회의 특수사정에 봉착하여 한국 어와 일본어 공부에 많은 시간을 드렸고 일제와 이 세의 사고방식차의와 일본 의 소수민족 한국인에 대한 차별취급등에서 단숨치 못 한 선교활동에 적지 않은 지장을 받았었다. 귀국한후 카나다교회에서 이 실정을 소개하시키는 한편 세계각국의 소수민족 문제를 연구하고 다시 오 리라 하는바 그 성과가 크 기 바란다.

福音과 民族에 熱情不足 確信있는 指導理念에서 자

이 세상에서의 선교의 과 업은 바로 불수가 없다 그 다음에 살아계신 하나님께 전심전력으로 복종함으로써 가능하다는 만민에게 복 음을 전파 하겠다 교회가 그의 몸이라면 그의 과업 을 저야하며 행하여야 한 다 이것은 교회는 교회밖 에 있는 자들을 위하여서 있다는 것이며 여기에 우 리의 예배 재력 봉사 집 중되어야 할것이다 선교적 교회의 성립은 낡아진 전통 이나 조직화된 것 있는 것 이 아니라 어떠한 지든지 하 나님의 복음 안에서 찾도록 노력 하여야 한다.

女子按手는 時期尚早

職務에 最大努力을

기 위하여 성경을 인용하 는 것은 합당치 않다 獨身敎職問題는 總會에서 論하자 성경상으로 볼때 성직자 우분이 십니다 大津에서 개척전도를 하 면서 동지사대학 신학부에 다니던 홍형규(洪炯圭)씨 는 「리빙히의 역사철학」을 졸업논문으로 내고 박사과 정에 들어가 계속연구하게 되었다 한다 (洪형규씨는 武 庫川교회 김만준장로님의 사 성경상으로 볼때 성직자 우분이 십니다)

自立基金에 協力하자

讚美歌 聖書
キリスト教圖書全般

聖歌隊練習においで下さい

どなたでも参加出来ます(特に男性大歓迎)

六月六日岡山光明園訪

十二月六日燭火音楽礼拝

練習日 月、二回 第二日曜日午後二時—三時
第四火曜日午後七時—九時

場所 在日大韓基督教大阪教会(鶴橋)
指揮者 曾永信(京都) 崔秀賢(大阪)
関西地方連合聖歌隊

日曜世界社
大阪市天王寺区悲田院町二八
振替 大阪一六七四電 (771) 〇九八五

― 苦しみの中に意味を―

ことである」。ナチスのユダヤ人迫害の悲劇を同じユダヤ人としてこうかたる作者の言に今の私共の立場をおもう時に考えさせられる点が多かった。というのはこのように苦しみの中に意味を見出してこそ苦しみが希望と忍耐を生むのであらう。

在日韓人……六〇萬のこの

う中で苦しみの淵に投げやられた。しかしそこにおいてはその苦しみの意味はもはや前
の如くはつきりしていないで
むしろ消失してしまっていた
のである。

とりわけ若い世代において
は日本人と同じ教育、生活環
境の中で育ったゆえに就耘、
入学、結婚等において突然表

このように苦しみの中で意味を見出さんとするその意味とは一体何をさしているのでしょうか。それは、私共がキリスト者という時に当然神の民として神から与えられている意味をさすのであろう

それゆえ苦しみの中に意味をいうこの問いかけは日本に住む韓国人に神から与えられ

認識しなければならぬのであろう。そのために在日大韓基督教会の歴史がわれわれの場について検討するつもりである。

以上のように今回修養会の主題をもつわけについて説明してきたのであるが、このことはルカ伝十二章五六、七かローマ書十二章一―三節にか

問うことなのである。私共は信仰者として、神の御旨とを自分のいる場において聞きと取り、その聞きとった御言を自らの使命として証ししていくのである。このキリスト者として最も基本的なことを今年度の修養会では各々の教会の使

リスト者としての使命感の上に成立するのである。それゆえ今年の主題は「一体あなただけは何をキリストから御旨としていただきましたか」という問いかけに対して、これですとらえ又こたえんとするものといみに許されている主題だといふ。

ない。この見解は絶対否定論の反動としては一つの意味があり、又れわれのおかれている社会的状況及び歴史の流れに目を開くという点においては確かに開くべきものをもっている。しかしこの見解が、帰化を積極的に肯定したり、原則的に認めたりする時、

によらなければその十分な差
行は望み得ないことだけは確
かである。現在の在日韓国人
が次第に日本に同化していく
過程にあることを認め、又そ
れが社会的には当然のこと
であるといえ、われわれが
日本人に帰化することを踏ま

在しなくなつたのだから不思議でたまらない。

政府は学園を支配することによつて直接学生を弾圧しなくてもデモを沈めることが出来るのだらうか？学生は青葉に塩とよろしく、学生本来の

ら祖国の学生に感謝をしよう
しかし何かの圧力で引き下
ったのなら、結果的にはそれ
もよしとしよう。しかし、政
府には問題が残る。デモを沈
めるだけで総ての問題が解決
したのではない。問題は問題

る目と何が神の御旨であり、
何が善でありかつ全きことか
という。キリスト者の根本を

としていのである。しかしこの拡がりというものもつきつめて考えるならば個々のキ

があるように思う。一つは帰化絶対否定論とでも言おうか。如何なる意味においても帰化を認めず、骨化と民族の裏切

神に召されたという事実が金
 里にも安易に考えられてはい
 ないだろうか

われわれが在日韓国人として
 生を受けたという事は決して
 生物学的、社会学的範ちゆ
 うによって割り切れる問題で

りにも安易に放キする事になる。従つてわれわれは在日韓国人キリスト者として、帰化するよりも在日韓国人としてとまつて生きるこの方がずっと神の召しに応える生き方である。

学生デモが韓国のような型で起るのは学生にも国家にも不幸な事であり、出来得るものなれば、再度デモの起らぬ様にと願う。しかし、起ったデモが一体どうなったのだろうか？金議長に対する、日本の物の見方に対する反抗としてのデモが、朴政権に対する反抗となつて現われた時に、全く日本にまで報道される様なデモはおこらなくなった。デモの常識からいうと今からいよ／＼という時に影すら存

五月
カレンダー

としており、一体韓国をどうするつもりなのか？国家建設が少しおくれても、本当に旧政治家の感覚でデモを押しないうて、野の聲を十分にきいてほしい。そして、あらためて国家百年の大計を立ててほしい。と、日本にいる韓国人として、心より願う。又私共もキリスト者として、神が私共と与えて下さった祖国のために心して祈り、かつ何かをすることの出来る一人一人でありたい。

(寿)

の間で、われわれの現在おかれてゐる位置と將來の見通しの分析をめぐつて、帰化という問題が大きくクローズアップされてきた。われわれの日本にある生活が、一時的なものであるよりはむしろ定住的なものとなりつつあることを思う時、このことは決して茶の間の話題でなくて、われわれ一人一人にちつて人生の方向を左右する性質のものである。又総会の將來の宣教方向にも重大な影響を与える問題

各自の見解がばらばらに放置されたままによいというものではなく？総会全体の基本線というものが形成される必要があるように思う。そこで私には私なりの模さくとしてここに自分の感じていることを提出してみたいと思う。これが少口となつて紙上とう論が活発になされ、総会全体の基本線が形成されるならば幸いでやる。

われわれの間には帰化の問題に対して極端な二つの見解

音の中に位置を占めることを許される積極的なモティーフの可能性を持ちながら、絶対否定となる時律法化し、福音とは何の関わりもない民族主義に墮する。民族を絶対視して福音の上位に置いたり、或は福音と何の関りもないものとするこのような見解に、われわれキリスト者は組するわけには行かない。

だがこのことは直ちにもう一つの積極的な見解へ帰化す極肯定論を意味するものでは

う信仰の事実が横っている。そしてその使命とはわれわれが生を受けた運命共同体としての同胞（直接的には在日同胞であるが、更に在韓同胞をも含めて）に對して福音の宣教をなし、人間としての福祉獲得のために仕えて行くこと でなければならぬ。その使命は在日韓国人のみの手で成しとげられるべきものである と言え、過言になるであらうが、少くとも在日韓国人の手

本人に帰化してもなお、韓国系日本人としていくらでも同胞のために生きることが、出来るではないかという考えである。このままではあらゆる面で差別待遇を受けなければならないので権利を獲得するために帰化することが白然である。といつても日本人になつたのではなく韓国系日本人として同胞のためにつくせばいいのではないかと。だが実際にはこの考え方は誠意ではない。

五
月
カ
レ
ン
ダ
ー

帰化問題によせて

黃義生

(上)

ここ二、三年來 われわれの間で、われわれの現在おかれてゐる位置と將來の見通しの分折をめぐつて、帰化という問題が大きくクローズアップされてきた。われわれの日本にある生活が、一時的なものであるよりはむしろ定住のものとなりつつあることを思う時、このことは決して茶の間の話題でなくて、われわれ一人一人にちつて人生の方向を左右する性質のものであり、又総会の將來の宣教方向にも重大な影響を与える問題

でもある。それ故この問題に各自の見解がばらばらに放置されたままによいというものでなく？総会全体の基本線というものが形成される必要があるように思う。そこで私には私なりの模さくとしてここに自分の感じていることを提出してみたいと思う。これが少口となつて紙上とう論が活発になされ、総会全体の基本線が形成されるならば幸いでやる。

われわれの間には帰化の問題に対して極端な二つの見解

の見解には民族愛という、福音の中に位置を占めることを許される積極的なモティーフの可能性を持ちながら、絶対否定となる時律法化し、福音とは何の関わりもない民族主義に墮する。民族を絶対視して福音の上位に置いたり、或は福音と何の関りもないものとするこのような見解に、われわれキリスト者は組するわけには行かない。

だがこのことは直ちにもう一つの積極的な見解へ帰化す極肯定論を意味するものでは

によつて一つの使命を委託された存在として召されたという信仰の事実が横っている。そしてその使命とはわれわれが生を受けた運命共同体としての同胞（直接的には在日同胞であるが、更に在韓同胞をも含めて）に對して福音の宣教をなし、人間としての福祉獲得のために仕えて行くことではない。その使命は在日韓国人のみの手でありしとげられるべきものであると言へば過言になるであらうが、少くとも在日韓国人の手

本人に帰化してもなお、韓国系日本人としていくらでも同胞のために生きることが、出来るではないかという考えである。このままではあらゆる面で差別待遇を受けなければならないので権利を獲得するために帰化することが自然である。といつても日本人になつたのではなく韓国系日本人として同胞のためにつくせばいいのではないかと。だが実際にはこの考え方は誠實ではない。